

「学ぶということ」

校長 星野 貞邦

早いもので、2月（如月：きさらぎ）に入り、2月4日は立春です。暦のうえでは、間もなく春を迎えますが、まだまだ寒い日が続いております。市内の学校では、インフルエンザやかぜが少しずつですが流行しているようで、1年生は、今年度から新たに始まる行事である館岩少年の家自然の教室（スキー林間）、3年生は高校入試も始まっているため大変に心配しております。生徒の皆さんは、うがいや手洗いなどの予防に努めるとともに、ご家庭におかれましては、お子さまの健康管理にご協力をお願い申し上げます。

さて、3年生はいよいよ埼玉県内の私立高校受験が始まり、3月の公立高校入試までの約1か月間の受験モードに入りました。私が教室の巡回をしていますが、真剣な眼差しで授業を受けている光景がみられ、「さすが3年生」と思う場面が多くあります。「人事を尽くして天命を待つ」という諺がありますが、そんな心境で最後までやり抜いてほしいと願っております。

話は変わりますが、「学ぶとういこと」について述べたいと思います。人はいつか何らかの職業につきます。どんな職業についても学ぶことが大切になります。例えば、野球選手になろうと決心した人なら、野球のルールや基礎体力作り、練習の仕方など科学的な理論に基づいて考え実践していくことで成果が出てきます。美容師になろうと思ったら、専門学校や大学に通って技術を身につけ国家試験を受験します。何をやるにも勉強（学び）は切っても切れないものです。

また、学ぶことで様々な発見があります。英語ができれば、海外メディアなどからの情報が広がり、世界の様々なニュースを聞くことができ世界の人とコミュニケーションが図られ、自分の世界がさらに広がることにもなります。国語を勉強することで、さらに難しい本が読むことができたり、そのことで、共通の話題として多くの人とのコミュニケーションへと発展する可能性が出てきたりもします。いろいろなことを学ぶことで、自分の可能性を探ることにもなります。

将来において、自分の人生を決める重要な転機が幾度となくきます。そんな時、中学校での学習は、きっと君たちを支えてくれるものも一つになると思います。中学校での学習は、大人として自立する準備をするものであり、自立とは自分の頭で考え、自らを変え、社会の一員として他の人と協力できることです。若いころの学びは、人生を支える大切な土台となります。

「学ぶ」は、「まねぶ（学ぶ）」と同源で「まねる（真似る）」とも同源です。すなわち、「学ぶ」とは、真似てならう、ならったことを繰り返して自分のものにするということです。生徒一人一人が、今日学習したことを自分の勉強方法で繰り返し学習して、自分のものとしてほしいと願っております。

最後に、今年度も残りあと2ヶ月余りとなりました。この3学期は、1・2年生にとっては新学年になるための大切な準備の期間でもあります。また、3年生にとっては、中学校で過ごす最後の期間となります。それぞれの生徒が、それぞれの想いを持って生活をしてください。